

王子動物園をもっと楽しむためのフリーマガジン

Habataki

2022 WINTER / SPRING

特集
日本一!
ホッキョクグマの
ミュキ

動物図鑑
ジャガー

日本一!

ホッキョクグマの ミユキ

地球温暖化により絶滅の危機に晒されているホッキョクグマ。日本でも飼育数の減少が懸念される中、当園では国内最高齢を誇る31歳の「ミユキ」が暮らしています。そんなミユキに焦点を当て、3つの角度からご紹介!

国内最高齢の “灘の貴婦人”

1990年11月30日に大阪・天王寺動物園で生まれ、1992年1月に来園し、昨年31歳を迎え、現在国内最高齢のミユキ。マイペースでのんびりとした性格に、美しい毛並みや凛とした佇まいから“灘の貴婦人”と呼ぶ熱心なファンも。意外にも寒さに弱く、冬はほとんどプールに入りませんが、夏には優雅に泳ぐ姿を見せてくれます。肉以上にサツマイモや白菜などを好むというミユキ。体調の些細な変化にも注意を払う担当者の丁寧な飼育と共に、他園からもうらやまれる人工降雪機で作る充実した生活環境が長寿の秘訣かもしれません。

✧ PHOTO GALLERY of MIYUKI'S YOUNGER DAYS ✧



2

1





アイス との思い出

豪快な飛び込み姿や独特の寝相で人気者だったオスの「アイス」。1991年11月に生後11カ月で北海道・釧路市動物園より来園、翌年にミユキを迎えてから2015年5月に死亡するまでの約23年間を共に暮らし、名ペアとして多くの来園者から愛されました。仲が良く、10歳代の頃は一緒に遊ぶ様子がよく見られましたが、20歳代になると互いに距離を取るようになります。しかしアイスの最期を捉えた夜間カメラには、アイスが力を振り絞ってミユキの眠る檻へ向かい、ミユキも気にするように近付く中、その場で息を引き取った姿が。単独行動が多いと言われるホッキョクグマですが、やはり幼い頃から一緒に過ごしたパートナーだったのだと感じさせる思い出です。



4.『じゃれあい』長尾敏之さん撮影(1999年) 5.『プレゼント』長岡幸雄さん撮影(2012年) 6.『大好き!』横木健一さん撮影(2006年) 7.『愛しているよ』横田稔さん撮影(2012年) ※以上、『アマチュア動物写真コンクール』受賞作品より。

担当者が見た、ミユキの現在

「元気で長生きをしてほしい。それだけです」と口を揃えるのは、広瀬飼育員、石川総括班長補佐、小川班長の3人。食事が減らないよう給餌回数を増やしたり、生肉は消化しやすいよう湯煎のひと手間をかけたり、若い個体の世話とは違った工夫や気遣いで高齢のミユキを支えています。

ただ最近では2016年に手術を受けた臍ヘルニア(＝出べそ)の再発や、突発的な体調不良が認められるなど気掛かりなことも。「以前から時々そういう症状はあったのですが、この頃は起こる間隔が短くなって。安静にしていれば回復しますが、ちゃんと原因を突き止めるために近々検査を行う予定です」(小川)。とはいえ、ミユキの安全を優先した飼育方針のため、様子を見ながらとのこと。

また絶滅危惧種のホッキョクグマは国内の飼育数も減少傾向にあり、ミユキを含め会える個体は貴重になりつつあります。「増やす努力が続けられていますが、僕らにとっても今後飼育する機会がないかもしれないですし、お客さんにとっても観られることが当たり前じゃなくなってきているので、ぜひミユキを観察して、ホッキョクグマを深く知っていただければうれしいですね」(広瀬)。



左から広瀬飼育員、石川総括班長補佐、小川班長



1.『りんごにChu♡』青山純子さん撮影(2008年) 2.『花見』細井儀一さん撮影(2018年) 3.『水鏡』白石光作さん撮影(2007年) ※以上、『アマチュア動物写真コンクール』受賞作品より。



ジャガー



ZOOM IN がんじょう

頑丈な体つきで胸が厚く、体に対し頭が幅広く大きいのが特徴です。足は短くがっちり。

【むてき】

**中南米では生態系最上位の捕食者
強烈パンチとかむ力はネコ科随一**

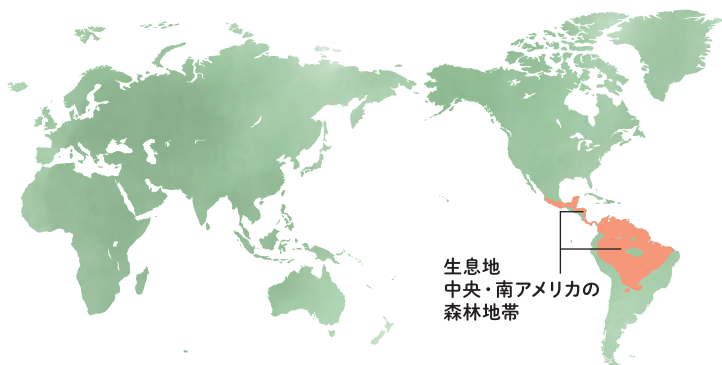
中南米では食物連鎖の頂点に立つ無敵の捕食者。圧倒的な筋力で雄牛を倒すほどのパワーを持ち、中でも前肢による“はたき(フック)”は強烈で、ペッカリーやカピバラなどの側頭骨を一撃で破壊してしまうことも。さらに発達した顎と巨大で鋭い犬歯によるかむ力はネコ科最強と言われ、その威力は大型ワニやカメの厚い甲羅に穴を開けるほどです。そのため、他のネコ科動物よりも吻(口先)の短い丸顔になっています。

【はんたー】

**他のネコ科では見られない技と高い
身体能力でさまざまな獲物を秒殺**



ライオン、トラなどは喉や首にかみついて獲物を仕留めますが、ジャガーはそれに加え頭蓋骨にかみつくという他のネコ科動物には見られない技を持っています。泳ぎも得意で魚なども捕食。縄張りも広く、高い身体能力を持ち合わせた強者ハンターと言えるでしょう。



生息地
中央・南アメリカの
森林地帯

ジャガー

英名：Jaguar

学名：Panthera onca

界：動物界 Animalia 目：食肉目 Carnivora
門：脊索動物門 Chordata 科：ネコ科 Felidae
綱：哺乳綱 Mammalia 属：ヒョウ属 Panthera

基本DATA

体長：約100cm（尾70～91cm）	食性：肉食
体重：45～113kg	繁殖形態：胎生

中央・南アメリカのアマゾン川流域にかけて分布し、熱帯雨林や草原、沼地などに生息。水泳から木登りまで抜群の身体能力を持ち、野生では魚やワニ、カピバラ、バクなどを捕食しています。夜行性で繁殖期以外は単独で生活。



【くろいからだ】

1/4の種に出現するメラニズム 高貴な黒の佇まいにくぎ付け

全身黒色のメラニズム（黒変種）の個体は、ネコ科の約1/4の種に出現します。この黒い色はメラニン色素によるもので遺伝が関係します。ヒョウなどは潜性（劣性）遺伝のため黒変種は少ないのですが、ジャガーは顕性（優性）遺伝のため比較的多く出現。これはジャガーの生息地である暗い熱帯林でのカモフラージュ効果があるためではと推測されています。

双子のジャガー、 すくすくと成長中！



当園では2021年8月、約8年ぶりに2頭のジャガーが誕生。黒色の個体である父「アトス」と黄色の母「ネリア」との間に生まれた双子は「アステカ」（オス）、「マヤ」（メス）と名付けられ、やんちゃに駆け回っています。双子は共に黒い体色で、父の両親は“黒色×黄色”、遺伝学的には双子の体は黄色の可能性もありました。両親が黄色の場合、黒色の仔は誕生しませんが、両親が黒色でも黄色の仔が生まれることはあるのです。



【ぜつめつきぐ】

野生での生息数は約6万頭と推定 国際的に種の保存が図られる希少種

かつては中南米大陸の至るところに生息したジャガーですが、現在では多くの地域でその姿を消し、野生での生息数は約6万頭と推定、国際自然保護連合のレッドリストでは準絶滅危惧種に。開発による生息域の減少、毛皮の違法取引を目的とした乱獲、家畜を襲う害獣として駆除されていることなどがその要因に挙げられます。国内では11園で21頭を飼育（2021年12月31日現在）、各地で種存続への努力が続けられています。



ZOOM IN もよう

独特な黒斑紋の「ロゼット」模様が特色。黒変種もよく観察すると柄が分かります。同じような模様のヒョウには黒枠の中の点がありません。

「タンタン」26歳の誕生日をお祝い

昨年9月にジャイアントパンダ「タンタン」(メス)が26歳の誕生日を迎えました。担当者からは事前に「かき氷風ケーキ」と「タンタンバーガーセット」を贈り、その様子をSNSで配信。当日は中国駐大阪総領事館から来園者へのプレゼント実施も。



バッジとカード

リスの限定公開で 見せた愛らしい姿

繁殖促進に伴い、閉鎖中だった「リスと小鳥の森」。繁殖期前の10～2月の日曜に限定公開しました。愛らしい姿を観察でき、来園者の表情もほころんでいた様子。来季、他園からの仲間も加わり、子リスの誕生に期待が高まります。



OJI ZOO NEWS 20

開放した獣舎で 動物の目線を体感

当園では現在ゴリラの飼育がなく、獣舎は空き状態。そこでゴリラ舎の屋外展示場を開放し、動物の目線を体感できる企画展『ゴリラのいた丘～ゴリラ気分を体験～』を昨年10月から実施中です。クイズも掲示し、生態を知る学びの場にも。



ゴリラ舎の屋外展示場



企画展入口

間近でオウムらの フライトを観察

鳥類の生態などに関する解説や、オウムらが実際に飛ぶ様子を観察できる『わくわくトリのフライトかんさつ教室』が昨年10月よりスタート。神戸市内の小学生以下の団体が対象で、鳥インフルエンザ対策のため、現在は実施を見合わせ中です。



メンフクロウ

アカビタイマジウム



解説の様子



ショウヘイ

アムールトラが 寅年の直前に来園

昨年11月、多摩動物公園生まれのアムールトラ「ショウヘイ」(オス・3歳)が仲間入り。2019年に来園した「レーニヤ」(メス・5歳)との繁殖に取り組みます。なおレーニヤは、『寅年年賀状素材写真』企画でも多彩な表情で人気を博しました。



動物への年賀状と 思い出写真を展示

来園者の皆様に愛され、2021年3月で70周年を迎えた王子動物園。そこで、思い出写真と動物宛てに皆様からの年賀状を募る新企画を実施。どちらも神戸市役所地下通路の「さんちか花時計ギャラリー」や「動物科学資料館」にて展示しました。

22 WINTER/SPRING



シャイン



シャインの献花台



マイと赤ちゃん

赤ちゃん誕生も 父コアラ、逝去

昨年5月にコアラの「マイ」(メス・2歳)がメスの赤ちゃんを産みました。親子で仲睦まじい姿を見せ、すくすくと成長しています。しかし、父「シャイン」(オス・4歳)はリンパ腫の疑いがあり、治療に努めていましたが、1月6日にこの世を去りました。



王子動物園 リニューアルへ

王子公園再整備基本方針(素案)への意見募集を実施。当園でも、種の保存/教育・環境教育/調査・研究/レクリエーションという4つの役割を踏まえ、美しい景観や立地特性を生かし、動物福祉に配慮した魅力ある動物園にリニューアルする予定です。

神戸市立王子動物園

開園時間

3月～10月 午前9:00～午後5:00
11月～2月 午前9:00～午後4:30

※ただし、入園時間は閉園の30分前まで。

休園日

毎週水曜日（祝日と重なる場合は開園）
年末12月29日～1月1日

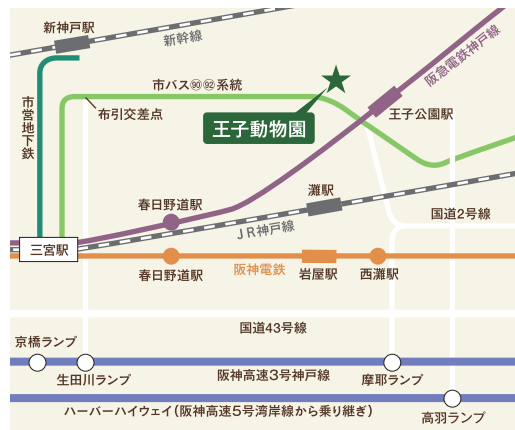
※春休み、夏休み期間中は臨時開園する場合があります。

料金案内

	個人	団体			年間パスポート		
大人（高校生以上）	600円	30～99人 540円	100～299人 480円	300人以上 420円	金額	有効期間	発行場所
中学生・小学生・幼児 兵庫県在住の65歳以上の方 障害者の方	無 料				3,000円	年間パスポート 作成日より1年間	王子動物園 入園ゲート受付

※ご希望の方は、入園ゲートで年間パスポート申込書に必要事項を記載し、現金を添えてお申し込みください。※王子動物園に入園の際は、必ず係員に提示してください。※申込者（年間パスポートに記載のある氏名の方）以外は使用できません。違反が判明した場合は年間パスポートを返還していただきます。※本券の再発行はいたしません。※写真欄はご本人の顔写真をお貼りください。

アクセス



□ 電車

- 阪急「王子公園」駅より西へ徒歩3分
- JR「灘」駅より北へ徒歩5分
- 阪神「岩屋」駅より北へ徒歩10分
- 神戸市バス90・92系統「王子動物園前」バス停下車すぐ
- 新幹線「新神戸」駅よりタクシー10分、または「布引」バス停より市バス90・92系統

□ 車

- 阪神高速3号神戸線 摩耶ランプを降りて、北へ「西灘」交差点を左折10分
- 生田川ランプを降りて、北へ「布引」交差点を右折15分
- 阪神高速5号湾岸線 住吉浜ランプを降りて、「高羽」交差点右折、「弓木4」交差点を左折15分

□ 駐車場

王子公園駐車場 料金（30分ごとの時間制）			
乗用車	～2時間	2～4時間	4時間～
	150円	100円	50円
バス	500円		
	※ただし、3,000円を上限とします。 ※土曜・日曜・祝日はバスの駐車ができません。		

三宮・花隈駐車場の利用割引

市立三宮駐車場・市立花隈駐車場を利用し、公共交通機関で来園された場合、駐車料金を3時間まで割引します。駐車券を動物園まで持参し、管理事務所で提示してください。※「三宮中央通り駐車場」の利用割引はできません。

「動物サポーター」大募集!!

王子動物園では、平成17年より「動物サポーター」を募集しています。この制度は、動物園を支援していただける企業・団体などや個人の方からご寄付いただき、動物たちのエサ代や動物舎の整備などの運営費用に充てるといったものです。動物園をより身近に感じていただき、みなさまに支えられながら、動物園の活性化を進めていくことを目的としています。

□ 法人サポーター

対象は企業・団体などで、年単位でご寄付をお願いしています。寄付金額は対象動物ごとに異なり、動物舎の前などに、企業・団体の名称を記載したプレートを設置します。なお、プレートに宣伝広告等は記載できません。詳しくは動物園にお問い合わせください。

□ 個人サポーター

対象は個人の方で、年単位のご寄付を募っております。なお、寄付金額は右の表のとおりです。寄付はふるさと納税の対象となるため、税金の控除が受けられます。ご寄付をいただいた方については、お名前を園内の支援者一覧に掲示（※1）し、年間パスポートや機関誌などを進呈します（※2）。

※1 希望される方のみ ※2 ふるさと納税の制度上、神戸市内在住の方に年間パスポートは進呈できません

年間サポート料金	
大人	10,000円／一口
中学生以下	1,000円／一口

〒657-0838 神戸市灘区王子町3-1 TEL 078-861-5624 HP <http://www.kobe-ojizoo.jp>

入園時の注意 ※動物にいたずらをしたり、食べ物を与えないでください。 ※イヌやネコなど、ペットを連れての入園はできません。 ※ボールなどの遊具の持込はできません。 ※園内での飲酒は禁止されております。 ※園内は全面禁煙です。

2022年3月発行 Habataki 2022 WINTER / SPRING

Publishment：神戸市立王子動物園 Produce：株式会社神戸新聞総合印刷 Oji Zoo Logo Design：YUKO ARAKI(神戸芸術工科大学)
Photograph：山内 城司(Voyage photo & Atelier salon) Art direction & Design：cursor inc. Edit：後藤 愛 Write：池田 久美

協力：公益財団法人神戸市公園緑化協会
Kobe Parks and Greenery Association